⑤【一人ひとりの学びを豊かにするための取組み】

生涯学習の時代といわれる中で、一人ひとりの学びを豊かにするための取組みが求められている。

そのために、総合的な情報提供と発信ができるよう情報の拠点を整備しＩＴ社会に対応できる体制を構築する。

（主な事業名）

・ 生涯学習推進計画の全面改訂（文スポ）
・ 学術・文化・産業ネットワーク多摩との連携（文スポ）
・ 講座、イベント、施設等ガイドと子供向けイベントガイドの発行（文スポ）
・ 図書館基本計画の推進（図）
◎ 子ども読書活動推進計画の実施（学校図書館ネットワーク構築）（図）
・ ヤングアダルト関係資料の充実
・ 児童施設への資料提供の拡充
・ 平山図書館改築
・ 日野市民文化祭（文スポ）
・ 情報弱者に対するICT学びの場の提供（豊田駅北交流センター）（文スポ）
◎ ひの市民大学、情報技術講習、各種講座の開催（公）
・ 保育協力員制度（文スポ）
・ 第20回公民館まつり（公）
・ スポーツレクリエーションフェスティバル、ウォーキング、スポーツ教室、楽楽トレーニング体操、新体力測定、市民体育大会の開催（文スポ）
・ 復元住居等文化財施設の公開（文スポ）
・ 発掘調査出土品の公開（文スポ・資料館）
・ 「出前いっちょう」（学校への出張展示・解説）（文スポ・資料館）
・ 文化財に関する市民の学習の支援
・ 文化財に関する普及・啓発事業の実施

◎は評価対象事業
文スポ・・・文化スポーツ課　　　図・・・図書館
公・・・中央公民館　　　資料館・・・郷土資料館

基本方針	一人ひとりの学びを 豊かにするための取組み	19年度実績	・学習・読書指導に必要な資料の貸出冊数 10,012冊 ・相談/調査依頼件数 209件
担当課	図書館	事業費(円)	2,496,465

事業の名称	学校図書館支援事業経費

事業の目的・将来目標

初年度17回であった学校・図書館間を結ぶ図書搬送便を年末年始を除く週1回(木曜日午後に)増便、利便性を図った。学校図書館に電算システムを導入する。

学校図書館支援センターを立ち上げ、学習・読書活動両面にわたって、学校図書館活動をサポートする。

事業の概要

①学習・読書指導に必要な図書の貸出しの為の搬送車を運行、並びに授業で使用する資料についてのレファレンス(相談業務)受付け
②職員の学校訪問(学年に合わせた図書の紹介・市立図書館利用ガイダンスを実施)
③中学生職場体験学習の受け入れ
④中学生夏休みジュニアスタッフを市内図書館で受け入れ
⑤学校図書館担当教諭への資料情報の提供(新刊図書のミニ展示会等)
⑥学校図書館の蔵書のデータベース化、及び蔵書検索システムの構築

事業の成果

①図書の貸出しを実施した小学校18校中14校、相談件数は188件。中学校は8校中4校、相談件数は21件。貸出し総数は10,012冊。
②25校72クラスを訪問、図書の紹介・市立図書館利用ガイダンスを行った。
③学校図書館に電算システムを導入し、資料のデータベース化を進めた。

事業の課題

①小学校4校中学4校の未利用校があること
②同一テーマについて、同時期に数校からの要望に十分答えきれていない
③学校図書館電算システムの運用

所管部署評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	4	4	5	17	A

学校図書館支援事業は、子ども読書推進計画の一環で、ことに学校図書館活動の充実は、子どもの読書の推進とともに、教育内容の充実にも資するもので、今後も拡大・充実が求められる事業である。

本部評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

市民評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A:充実・拡大、B:維持・継続、C:見直し、D:抜本見直し、E:休止・廃止

基本方針	一人ひとりの学びを 豊かにするための取組み	19年度実績	・子どもの読書に関する行事の実施　106回 ・児童図書の総貸出冊数　385,484冊
担当課	図書館	事業費(円)	2,079,740

事業の名称	子ども読書活動推進支援経費 （◎子ども読書活動推進計画の実施（学校図書館ネットワーク構築））

事業の目的・将来目標

①児童と関わる仕事に従事する人々、保護者に対して「子どもと読書」についての講演会を行い、読書活動を進めるにあたっての具体的な方法を学ぶ
②図書予算の継続的な確保が難しい施設に対して配本並びに団体貸出しを実施

市内児童関連施設において担当職員・ボランティア・保護者が円滑に読書活動を進められるよう支援する。

事業の概要

①子どもと読書をテーマに講演会を開催
②幼稚園・保育園貸出用図書を購入、年間2～3回配本。又移動図書館車が巡回し幼稚園・保育園・学童クラブに団体貸出しを行う。
③小学校・幼稚園・保育園・学童クラブ等で読み聞かせを行う市民向け講座を職員が講師となり開催
④依頼のあった児童館・学童クラブ・保育園等に出張しおはなし会を実施
⑤年間を通して市内の図書館でおはなし会を開催
⑥夏休みに図書館の仕事を体験する「中学生ジュニアスタッフ」を募集、図書館の仕事を体験することで（地元の）図書館利用へとつなげてゆく。

事業の成果

①講演会実施、参加44人
②配本・団体貸出し合計約24,000冊
③4回開催参加延べ人数36人
④22回
⑤92回開催　延べ2,377人が参加
⑥13中学校延べ112人が参加

事業の課題

①講演会講師選びが難航。(アンケートで上がった市民の声を反映させた講師選定をするには謝礼金が不足)
②ヤング層(中学生・高校生を中心としたこれから社会へ出て行こうとする人達)の図書館利用を伸ばす。

所管部署評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	4	4	5	17	A

子どもの読書活動を推進することは、国も平成13年に推進法を設け、推進計画を策定し、さらに、その見直しを進めている。日野市も平成18年に推進計画を策定し、また、「子育てしたいまち、しやすいまち日野」を目指す日野市として、今後も拡大・充実を進める事業である。

本部評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

市民評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A:充実・拡大、B:維持・継続、C:見直し、D:抜本見直し、E:休止・廃止

基本方針	一人ひとりの学びを 豊かにするための取組み	19年度実績	延べ参加者数 9,217人 延べ講座回数 333回
担当課	中央公民館	事業費(円)	25,467,000
事業の名称	成人事業経費		

事業の目的・将来目標

市民の学習意欲の動向を踏まえ、少しでも多くの知識を身につけ、自己学習を生涯にわたって続けられるようにする。また、地域とのつながりを支援できるようにする。

市民が学習する内容のレベルアップや、多くの学習要望に対応した仕組みづくりと地域等との連携による学習機会及び場所の拡大に努める。誰もが生涯学習の機会が持て、それを活かしていける事業(地域還元)の取り組みを実施する。

事業の概要

公民館主催事業として、主に成人を対象に教養・語学・音楽・歴史等の講座を行い、生涯学習の意欲の向上と交流の場を提供する。「外国人のための日本語教室」のみ委託事業となっている。

事業の成果

参加者の要望(アンケート等)に応え、社会状況に合った内容を取り上げ、講師は公民館で活動する登録サークルからの人材も活用した。演奏会を始め、映画会、平和事業、国際友好、生活課題、スポーツ、技術養成、子育て、健康、三世代交流、パソコン等数多くの講座を実施した。子育て世代の参加を促すために、主に学習の講座に保育をつけている。みんなでつくる環境講座ほか、5事業は他課・市民団体・大学との共催で実施した。成人事業は延べ53事業333回を実施し、参加延べ人数は9,217人である。

事業の課題

生涯にわたる幅広い学習機会の提供とともに、生涯学習の立場から公民館で習得した知識や技術を地域の中に還元し、事業を通して公民館で育った人材を地域とつなぐことができるような市民参画のまちづくりを進める。

所管部署評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	4	0	13	B

一人ひとりの学習成果や集団学習の場で培われたつながりが、個を超えてコミュニティ形成に反映できるような内容や学習方法を検討する必要がある。

本部評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

市民評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A：充実・拡大、B：維持・継続、C：見直し、D：抜本見直し、E：休止・廃止

基本方針	一人ひとりの学びを 豊かにするための取組み	19年度実績	延べ参加者数 2,674人 延べ講座回数 65回
担当課	中央公民館	事業費(円)	7,603,000
事業の名称	市民大学経費 (◎ひの市民大学、情報技術講習、各種講座の開催)		

事業の目的・将来目標

・多様な市民の学習要望に応えるため、市民の視点に立ったカリキュラムを構築する。
・多様な市民の知見を活用をする。

市民の自己実現や人格形成に寄与するため、市民の市民による、市民のための総合教養大学を構築する。

事業の概要

「いつでも、どこでも、だれでも」をキャッチフレーズに、多様な市民の学習要望に応えるため、市民の視点に立った多くの市民有志が企画運営し、市内大学、企業との連携や多様な市民の知見を活用し、多岐にわたった講座を開催している。

事業の成果

多様な市民の学習要望を取り上げ、講師は大学教授を始め、企業の専門家や一芸に秀でた市民、公民館で活動する登録サークルからの人材も活用した。日野の歴史、野菜づくり、アクリル画、西洋近代絵画、植木の手入れ、ちぎり絵、パソコン等数多くの講座を実施した。また、実践女子大学との連携講座として『尾形光琳の生涯』『向田邦子の文学の世界』を実施し、NHK共催事業については『インカ・マヤ・アステカの謎』『フェルメールとオランダ風俗画』『近衛家と陽明文庫』を実施した。事業は延べ65回実施し、参加延べ人数は2,674人である。

事業の課題

情報提供者と受け手が、一方通行ではなく互いに情報交換ができる場としての整備を進める。

所管部署評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	4	1	14	B

市民みずからの手による、市民のための企画運営組織が組織できている。

本部評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

市民評価

必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価

【総合評価】A:充実・拡大、B:維持・継続、C:見直し、D:抜本見直し、E:休止・廃止